



菅波 茂

2002年11月29日。「まなび広場にいみ」にて、障害者福祉にたずさわっている方々にお話をさせていたただく機会があった。二つのキーワードを使った。一つは「障害」とは進化である「」、もう一つは「公正」とは、意欲があり能力があれば機会を与えられて自己実現できること」である。

「障害」とは進化である「」について説明する。胃を切り取れば小腸の一部が胃の機能を果たすようになる。このように人間の身体は代替機能が働く。聴力が落ちれば、他の五感が代替機能によって普通の人以上に発達する。

次に「公正」について

説明する。通常の人にとって機会とは、お金か社会的地位である。障害児にとっては、障害に伴って進化した機能が能力となる。障害児にとっての公正とは、この能力を生かす機会が与えられることだ。

例えば、聴力に問題のある障害児にとっての公正の機会として、国境を越えることを加えることができる。

発展途上国の物価は安いので、支給されるお金の価値が増える。健常者にとって言葉は時には大きな障害になるが、聴力に問題のある障害児には手話というコミュニケーション

## 国境を越える障害児福祉

がある。障害によって進化した機能を発見することができる。そして、国境を越えることによる積極的な対応策を考えることができる。

「障害児は弱者である」という定義からは「弱者救済」のコンセプトしか存在しない。

「障害」とは進化である「」という定義に公正さの定義を加えることにより、国境を越えた活動が期待できる。

発展途上国における、障害児に対する国の福祉政策は貧弱である。先進国とは弱者救済システムの発達した国である。先進国の障害児福祉システムを移転することで、発展途

上国の障害児福祉の発展に寄与することができる。

A M D A 国際福祉事業団が運営委託を受けている公設国際貢献大学校は、アフガニスタン政府と訓練センターの設置に合意した。障害児の能力を生かすために海外の政府と訓練センターを設置することが可能である。

さらに、世界中に30カ国の支部と30の姉妹団体から構成されるA M D A の国際ネットワークがある。彼らが現地のカウンタートパートナーになることができる。

A M D A が日本国内の障害児施設の方々と障害児の公正さのために連携する日も近い。そして、障害者福祉の役割に立てることができれば、望外の喜びである。

(アジア医師連絡協議会代表 題字も)